

全
広
連

二〇三三年三月七日発行／奇数月一回五日発行／通巻一〇九八号／昭和三十九年二月十一日第三種郵便物認可
発行／公益社団法人全日本広告連盟 〒一〇四・〇〇六一 東京都中央区銀座七丁目四番十七号電通銀座ビル七F
電話〇三・三五六九・三五六六 www.ad-zenkoren.org 定価四五〇円(購読料は金費に含む)

広告の元気は、ニッポンの元気。

全 広 連

Special Report
第70回 全日本広告連盟沖縄大会ご案内



千葉県 大網白里市／千葉女子オープンゴルフ優勝の安田彩乃選手



公益社団法人
全日本広告連盟
JAPAN ADVERTISING FEDERATION

www.ad-zenkoren.org

ごあいさつ



第70回全日本広告連盟
沖縄大会組織委員会 会長
石嶺 伝一郎

第70回全日本広告連盟沖縄大会は「OKINAWA2022広告で未来を明るく！～ようこそ南の島の広告祭へ」をテーマに、5月19日から、沖縄市の沖縄アリーナを主会場に開かれます。

2020年から猛威をふるう新型コロナウイルス感染症は日本経済に大きなダメージを与えました。とりわけ経済における観光の比重の高い沖縄は、インバウンド需要が蒸発したことで深刻な影響を受けています。

全広連沖縄大会のテーマは、こうした状況の中、未来を切り開く大会にしたいという願いを込めております。コロナは、人々の暮らしや仕事のあり方を世界規模で激変させましたが、全国の広告関係者が一堂に会し、この状況に対応して広告がどこに向かうかを議論することは、とりまおさずafterコロナという新時代の広告のあり方、ひいては国のあり方をも展望する重要な意義があると考えます。

沖縄には、海のかなたを「ニライカナイ」、桃源郷とみなし、そこから訪れる存在は来訪

神として人々に幸福をもたらすという言い伝えがあります。

また沖縄は、かつて琉球王国という独立国であり、自国を「万国津梁」、すなわち国際的な架け橋にするという大きな国家目標を掲げておりました。事実、近世の一時期には日本と中国、東南アジアを結ぶ「大交易時代」と呼ばれる繁栄の時代がありました。

多くの人が海を超えてつどい、ここ沖縄で交わることには現代においてもまた大きな意義があるのではないのでしょうか。この世界的な大きな転機に、開放的な南の島で、闊達に意見を交換することで、新たな日本の姿を展望する機会にできればと願っております。

光あふれる沖縄は、東アジア有数の海浜リゾートであるばかりでなく、古典芸能など王国で独自に発展した文化、石垣牛やアグーなど魅力ある食材がございます。皆様にはこれらも体感していただきたいと存じます。

沖縄大会への皆様のご参加を心よりお待ちしております。

広告の元気は、ニッポンの元気。

全広連

Vol.1098

2022

3

CONTENTS

- 2 Special Report 第70回 全日本広告連盟沖縄大会ご案内
- 5 第10回 全広連日本宣伝賞決まる
- 6 各地広告協会の動き
(大阪・静岡県・岩手・山形)
- 8 CLIP BOARD

Cover photo & Off shot

2021年11月に大網白里市のヌーヴェルゴルフ倶楽部にて第1回千葉女子オープンゴルフトーナメントが開催された。写真は優勝した安田彩乃プロ。大会には千葉を拠点に活動するプロ60人、アマチュア30人が参加。選手に活躍する機会をつくると共に、スポーツとしてのゴルフの魅力を発信した。女子ゴルフは注目を浴びる一方でトップの大会に参加できる選手の数は限られている。今大会の参加者からは「久しぶりに出場する機会となり良い緊張感の中でプレーできた」、関係者からは「地元での大会開催は長年の夢だった。来年以降も続けてほしい」という声。ゴルフ場にはプレーを楽しむ若い世代も増えつつあり、この大会から未来の女王が誕生するかもしれない。



千葉広告協会協力 表紙・中表紙写真提供 千葉日報社



30年ぶりの沖縄開催

沖縄が27年間の米軍統治から日本に復帰したのは1972年でした。あれから50年。記念すべき年に、こちらも節目となる第70回の全日本広告連盟沖縄大会が開かれます。復帰20周年だった1992年以来、30年ぶりの沖縄開催となります。

今大会は明るく開放的な南の島で、広告の未来を闊達に議論したいと企画されました。大会テーマ「OKINAWA2022 広告で未来を明るく!~ようこそ南の島の広告祭へ」は、そのような意図を端的に表しています。

ご承知のように新型コロナウイルス感染症は人々の暮らしや仕事のあり方を世界規模で激変させ、日本経済にも大きなダメージを与えました。とりわけ経済における観光の比重の高い沖縄は、インバウンド需要が蒸発したことで深刻な影響を受けています。そんな中、全国の広告関係者が一堂に集って開かれる今大会は、激変する環境下での広告のあり方を論ずることになります。そのことは取りも直さず、コロナ後の新時代の広告の方向をも展望する機会になると考えます。

大会のロゴマークは、沖縄独自の赤瓦にも通じる赤を基調とし、沖縄のシンボルであるシーサーを図案化しました。飛び跳ねるかのような躍動的なデザインは、広告の未来を活気あふれるものにしたという期待が込められています。

地域とスポーツビジネスの可能性と展望

式典会場となる沖縄アリーナは那覇の北、約24キロの沖縄市にあり、1万人を収容できる規模としては沖縄初の大型施設です。自由視点映像システム「4D REPLAY (4Dリプレイ)」をはじめとした先端技術を導入する最新鋭の施設であり、大会参加者の皆様には、2021年6月に本格稼働したこの新たな施設の魅力も併せて体感していただきたいと存じます。

式典ではまず午前の部で、この沖縄アリーナの指定管理者にもなっている沖縄バスケットボール株式会社(Bリーグ「琉球ゴールデンキングス」運営会社)の木村達郎社長に登壇してもらい、「地域におけるスポーツビジネスの可能性」と題して記念講演していただきます。



大会会場となる沖縄アリーナ

木村氏は琉球キングスの創設者で、bjリーグ参戦1年目に最下位だったチームを2年目に王座へと導きました。スポーツを通じて県民を勇気づけただけでなく、キングスの本拠地として沖縄市を活気付けた立役者として知られています。今は沖縄アリーナをエンターテインメントの殿堂とすべく奮闘中です。木村氏のここまでの過程と今後の展望には、地域活性化のヒントと課題が豊富に含まれていると思います。



木村達郎氏

沖縄の歴史と広告を振り返る

午後の部では式典と各種表彰が催され、引き続き「沖縄返還50年と広告を振り返る」と題したトークセッションが開かれます。

米軍統治下にあつて沖縄は、知事に相当する「琉球政府主席」も米軍の任命制で、住民自ら選ぶことができないなど、苦難の道を歩みました。住民による運動が展開され、ようやく得られた本土復帰です。それから50年、沖縄は大きく発展しました。

1975年には沖縄海洋博覧会が開かれ、沖縄の海

の美しさが認知され始めます。1992年の復帰20周年には首里城が復元しました。戦後50年となった95年には沖縄戦の激戦地に「平和の礎」が完成し、地元住民ばかりでなく日米両軍の兵士たちも敵味方なく刻名されました。

90年代後半には安室奈美恵など多くの人気芸能人を輩出し、注目を集めます。2000年には沖縄サミットが開かれ、世界のトップリーダーが集いました。01年にはNHKの連続テレビ小説「ちゅらさん」が人気を博し、沖縄ブームの様相を呈します。返還された米軍基地跡地が新たな街として発展し、その後はインバウンド需要も取り込んで東アジア有数の海洋リゾート、「癒しの島」として一大観光地となったのはご承知の通りです。

トークセッションは、この50年間に展開された広告を通じ、上記のような沖縄イメージの変遷をたどる企画です。沖縄出身の具志堅用高さんをゲストに迎え、ガレッジセールが進行役となってトークと映像で沖縄の歴史をひもときます。

式典後には那覇市に戻り、沖縄ハーバービューホテルで懇親会を開きます。現時点では全参加者が一堂に集う本来の形での開催に向け準備を進めていますが、感染症の状況によっては参加者数を絞るなど形式を変更する可能性もあります。今後、状況を見ながら最終判断し、皆様にはあらためてご連絡いたします。

沖縄を体感する視察・見学会

式典翌日の視察・見学会は七つのコースを設定しています。

- (1) 首里城下町と「やちむん」(陶器)の町をたどる定番コース
- (2) 「平和の礎」やパワースポット、泡盛の酒造所をめぐるコース
- (3) 世界遺産の「グスク」(城跡)など琉球王国の歴史をめぐるコース
- (4) 普天間基地を一望できる場所などをめぐり日米安保について考える「米軍基地と沖縄」コース
- (5) 世界自然遺産に登録された「やんばる」の森を堪能するコース
- (6) 世界有数の大型水槽を備える沖縄美ら海水族館と古宇利島をめぐるコース
- (7) ちょっと足を延ばして石垣島に赴く1泊2日のコース

ーなどがあります。

さらに、国内女子プロゴルフ(LGPA)の開幕戦・ダイキンオーキッドレディーストーナメントの舞台ともなっている琉球ゴルフ倶楽部での懇親ゴルフ会も設けています。

沖縄には石垣牛やアグー豚など魅力ある食材や琉球



世界文化遺産「琉球王国のグスク群」の一つ・勝連城跡



世界有数の大型水槽を備える沖縄美ら海水族館

王朝料理に代表される独特の食文化があります。独特の風土に育まれた伝統文化・芸能が脈々と息づく土地でもあります。皆様には大会へのご参加と併せ、これらも大いにお楽しみいただきたいと存じます。

5月の沖縄大会のころにはコロナ禍を脱し、全国から心おきなくご参加いただける状況になっていると期待しております。多くの方のご参加を心より願っています。

第10回 全広連日本宣伝賞決まる

昨年12月21日に実施した第10回「全広連日本宣伝賞」選考委員会にて、「松下賞」を伊藤雅俊氏(味の素㈱執行役会長)、「正力賞」を小山薫堂氏(放送作家、脚本家、京都芸術大学副学長)、「吉田賞」を嶋村和恵氏(早稲田大学商学学術院教授、日本広告学会会長)、「山名賞」を杉山恒太郎氏(クリエイティブディレクター)にそれぞれ贈賞することを決定した。

各賞は、5月19日開催の「第70回全日本広告連盟沖縄大会」(沖縄市「沖縄アリーナ」)式典内で贈賞を行う。各賞の受賞者と贈賞理由は下記のとおり。



松下賞



伊藤 雅俊 (いとう まさとし) 氏

味の素株式会社 執行役会長

味の素㈱代表取締役社長、代表取締役会長等を歴任し、2021年より現職。2016年から日本アドバイザーズ協会理事長として、ダイバーシティ委員会創設、字幕付きCM導入、JICDAQ(デジタル広告品質認証機構)設立へ尽力するなど、広告主の立場から諸課題に対してリーダーシップを発揮。2003年から味の素㈱、日本オリンピック委員会が共同で展開している「ビクトリープロジェクト」や「勝ち飯」では、トップアスリートへの食を通じたコンディショニングサポートを継続。2017年より日本スポーツ協会会長をつとめ、社会活動の分野でも活躍。広告界全体の発展と健全化に大きく貢献した。



吉田賞



嶋村 和恵 (しまむら かずえ) 氏

早稲田大学商学学術院教授
日本広告学会会長

1995年早稲田大学助教授を経て2001年より現職。専門は広告論。2016年度から女性として2人目となる日本広告学会会長をつとめ、デジタルシフト研究委員会を設けるなどデジタルマーケティングへの対応を推進。新しい時代の「広告」を再定義し、学会の存在価値を大いに高めている。日刊工業新聞社「日本産業広告賞」の審査委員長をつとめるなど広告界とのつながりにも注力している。長年に渡り、大学での広告教育を通して、優秀な人材を多数輩出しており、人材育成の面からも広告界全体の発展に寄与した功績は大きい。著書に「現代広告論[第3版]」、「新しい広告」など。



正力賞



小山 薫堂 (こやま くんどう) 氏

放送作家、脚本家
京都芸術大学副学長

日本大学芸術学部在籍中に放送作家として活動を開始。「料理の鉄人」「カノッサの屈辱」など斬新なテレビ番組を数多く企画。映画「おくりびと」で第32回日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第81回米アカデミー賞外国語部門賞を獲得するなどコンテンツプロデューサーとして卓越した能力を発揮。文化庁「日本博」企画委員、「2025年大阪・関西万博」テーマ事業プロデューサー、熊本県PRキャラクター「くまモン」のプロデュースなど地域創生やSDGsという社会性の高いテーマのプロジェクトにも精力的に取り組むなど、幅広い分野での質の高い活動は贈賞に値する。



山名賞



杉山 恒太郎 (すぎやま こうたろう) 氏

クリエイティブディレクター

㈱電通入社後、クリエイティブディレクターとして活躍。1999年よりデジタル領域のリーダーとして、インタラクティブ広告の確立に貢献。2015年より㈱ライトパブリシティ代表取締役社長。主な作品は、小学館「ピッカピカの一年生」、セブンイレブン「セブンイレブン、いい気分!」、サントリーローヤル「ランボー」シリーズ他で、人々の記憶に残るCMやコピーを制作し、国内外の広告賞を多数受賞。2018年日経新聞での連載を元に「アイデアの発見」を出版し、若い広告人へ「歴史に学ぶ大切さ」を訴え、大きな話題を呼ぶ。国内外のネットワークも広く、長年にわたり、広告界へ多大な功績を残している。

大会プログラム(予定)

5月19日 会場:沖縄アリーナ

午前の部

■10:00~11:30

●オープニングゲスト(空手演武)

喜友名諒氏

2020東京五輪空手男子形金メダリスト

●大会記念講演

木村達郎氏

沖縄バスケットボール(琉球ゴールデンキングス)
代表取締役社長

■11:30~/昼食(沖縄アリーナ)

午後の部

■13:05/オープニングアトラクション

■13:30~13:50/挨拶・祝辞

開会のことば ①歓迎挨拶 ②大会挨拶 ③来賓祝辞

■13:50~14:15/表彰

①第10回全広連日本宣伝賞

②第1回鈴木三郎助全広連地域広告大賞

■14:30~/トークセッション

「沖縄返還50年と広告を振り返る」上映あり

■15:30~/次年度開催地紹介 金沢広告協会

■15:45~/閉会

各地広告協会の動き

大阪 大阪広告協会に阪大/石黒研究室がやってきた!

大阪広告協会(理事長・山田邦雄 ロート製薬会長)では1月12日にリーガロイヤルホテル大阪で特別講演会を行った。

講師はアンドロイド研究の第一人者で大阪大学 石黒浩名誉教授。2025年大阪・関西万博プロデューサー。会員ら130名の応募となり「アンドロイドが人間と広告コミュニケーションを担う日」をテーマにアンドロイド・アバターとの共生社会について語った。



アンドロイド・アバターとの共生社会を語る石黒教授

コロナ禍で働き方や経営を考える時にアバターの活用で世界が変わる。アバターは実世界のような不自由さ、差別、倫理課題などが無い。またアバターは人の不安(心や身体の悩みやトラブル回避、将来への不安)を解消することができる可能性があり、多くの市場のニーズに応えることもできる等、映像やデータを基に提言された。2025万博で50年後の未来のシーンや1000年後の人間を表現するパビリオン

構想まで示された。参加者からの質疑も活発で、これからの関西広告界の発展の在り方を探り、新しいビジネスヒントを得た。コロナ禍を鑑み、後日アーカイブで会員限定で視聴共有サービスも行った。

静岡県 日本eスポーツ連合・浜村副会長が講演 コロナ禍でeスポーツの注目度が上昇

静岡県広告協会は1月21日、浜松市のアクティビティ浜松・研修交流センターで2021年度広告講座を開催した。「隆盛する世界のeスポーツと勃興する日本の現状」と題し、(一社)日本eスポーツ連合副会長の浜村弘一氏が講演した。



浜村氏がeスポーツの可能性と課題を語った

浜村氏は、世界ではeスポーツの競技人口は爆発的に増加しており、巨額の賞金、万単位の観衆を集客する大会も開催されている現状を紹介した。一方、国内市場は2023年には150億円規模に成長すると予測され、コロナ禍もありeスポーツへの注目度は上がっていることを指摘した。大会や

チームスポンサーになる大企業も出ており、eスポーツは伸び代がある産業であることを強調した。年齢や性別、身体のハンディキャップなどに関係なく楽しめる、今の時代にあったスポーツである魅力を語った。更なる普及と選手の育成をはかるためには練習施設の整備も必要であり、運営や対処すべき法的課題を示した。

講演会には会員など23名が参加し、講演終了後も熱心な質疑応答が続いた。

岩手 恒例の節分析願祭・新春講演会を開催

岩手広告協会(会長・東根千万億 岩手日報社社長・主筆)は2月3日、盛岡市内のホテルで節分析願祭を行い、新型コロナウイルス禍からの景気回復や各社の社業発展を願った。



節分析願祭の様子

会員ら約40人が参加。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、恒例の袴着用や豆まきを控え、神事のみ執り行った。役員ら9人が玉串をささげ、広告業界や

県内経済の発展を祈った。

祈願祭に続き、新春講演会を開催。障害者アートの商品化を手掛けるヘラルポニー(盛岡市)の松田文登代表取締役副社長(30)が「盛岡の地から、異彩を放て。」と題し講演した。



講演するヘラルポニーの松田文登 代表取締役副社長

松田副社長は「障害は欠落ではなく、違いであり個性。障害がある作家とビジネスパートナーになることで、経済循環を生み出している」と創業への思いや事業内容を説明。さらに「ファッションやインテリア、ホテルなど多岐にわたる分野とコラボを進め、今後さらに作家への利益還元を目指す」とし、「作家の才能を披露する場を広げ、アートとして本当の意味で作品の価値を高めていきたい」と展望を語った。

山形 オンラインで広告セミナー実施 大日本除虫菊・北取締役が講演

山形広告協会(会長・寒河江浩二 山形新聞社長)は2月9日、オンラインで「山形広告セミナー」を開催し、大日本除虫菊取締役宣伝部長の北伸也氏による講演「何かあるやろ〜金鳥宣伝部の裏話〜」を配信した。80人を超える聴講申し込みがあり、事例を基に効果的な広告展開の在り方について考察した。

大日本除虫菊は「金鳥」のブランドと、ユーモアあふれる広告の数々で知られる。講演で北氏は、創業期から最近に至るまで

のさまざまな広告事例を提示しながら、その時々背景や広告展開による反響などを紹介した。



北氏が「金鳥」ブランドの広告展開を紹介

さらに、需要拡大期にはブランドや商品名の浸透、その後の段階では「使ってみよう」という気持ちを喚起すること、インターネットが台頭している現在は会員制情報サイト(SNS)などでの拡散を通してホームページ閲覧に誘導することなど、広告に求められる要素が変化していることを指摘。新聞とネットの融合に向けた新たな試みなどを紹介しながら、「限られた予算でいかに効果を出せるかを考えながら、印象に残りながらも納得感のある広告制作に注力している。各メディアの持つ特性や特徴を生かして発信を続けていきたい」と語った。



INFORMATION

令和3年度全広連シンポジウム

令和3年度全広連シンポジウム（京都）の開催概要は以下の通りとなっています。

■京都開催（京都広告協会） ※実開催及びアーカイブ配信

- 日時：令和4年3月15日（火） 13:30～15:30
- 会場：ホテルグランヴィア京都
- テーマ：「地域の広告コミュニケーションのこれから—新時代にどう向き合うか—」
- モデレーター：鏡明氏（株）ドリル エグゼクティブ・アドバイザー
- パネリスト：田中里沙氏（事業構想大学院大学 学長、(株)宣伝会議 取締役）
鷹薮愛郎氏（株）博報堂 クリエイティブディレクター、(株)東北博報堂 エグゼクティブクリエイティブディレクター）
土橋通仁氏（株）電通中部支社 クリエイティブディレクター／アートディレクター）
今井美緒氏（株）BBBDO J WEST クリエイティブディレクター／コピーライター）

活動予定（令和4年3月～5月）

- 3月 2日 令和3年度第4回8ブロック会議
- 3月14日 令和3年度第5回理事会
- 4月21日 令和4年度第1回8ブロック会議
第1回「鈴木三郎助全広連地域広告大賞」選考委員会
- 4月25日 第116回全国事務局長会議、令和4年度第1回理事会
- 5月18日 第70回通常総会、令和4年度第2回理事会（那覇市・沖縄ハーバービューホテル）
- 5月19日～21日 第70回全日本広告連盟沖縄大会（沖縄市・沖縄アリーナほか）

第70回全広連沖縄大会登録のご案内

第70回全広連沖縄大会（P1～P4参照）の登録申込を下記の通り受け付けております。大会申込Webサイトよりご登録ください。登録申込に関するお問合せは所属広告協会までお願いいたします。

- 大会登録料（税込）
現地参加 28,000円
オンライン参加 3,000円（一般4,000円）
- お申込み期間
現地参加 3月15日（火）まで
オンライン参加 4月22日（金）まで
※オンライン参加は、4月23日（土）～5月16日（月）のお申込は一般料金となります。
- 申込Webサイト
- 大会全般に関するお問合せ
第70回全日本広告連盟沖縄大会事務局
〒900-8525 沖縄県那覇市泉崎1-10-3（琉球新報社内）
TEL：098-865-5185 [受付時間] 9:30～17:30（土日祝休）
E-mail：zenkoren-okinawa@ryukyushimpo.co.jp

公益社団法人 全日本広告連盟 加盟37広告協会

全北海道広告協会	秋田広告協会	東京広告協会	山梨広告協会	岐阜広告協会	大阪広告協会	広島広告協会	高知広告協会	熊本広告協会	沖縄広告協会
青森広告協会	山形広告協会	横浜広告協会	富山広告協会	静岡県広告協会	神戸広告協会	徳島広告協会	福岡広告協会	大分広告協会	
岩手広告協会	福島広告協会	新潟広告協会	金沢広告協会	愛知広告協会	山陰広告協会	香川広告協会	佐賀広告協会	宮崎広告協会	
仙台広告協会	千葉広告協会	長野県広告協会	福井広告協会	京都広告協会	岡山広告協会	愛媛県広告協会	長崎県広告協会	鹿児島県広告協会	

全広連は、下記37広告協会の会員の皆様にお送りしています。

【お願い】人事異動などによる会員の交代や役職の変更等が生じ、機関誌「全広連」の発送先が変更になった場合は所属広告協会事務局へご連絡をお願いします。

全広連の活動について詳しくはウェブサイトから ▶ www.ad-zenkoren.org